

4月から定期予防接種の対象になった子宮頸がんワクチンの「サーバリックス」について、厚生労働省は28日、説明文の重大な副作用の項目に急性散在性脳脊髄炎(ADEM)とギラン・バレー症候群が加わり、医療機関に注意喚起したと発表した。

副作用追加で注意喚起

29A 子宮頸がんワクチン

DEMは3例、手や足の筋肉がまひするギラン・バレーは5例あったと報告され、3月末時点で説明文が改訂された。死亡例はないという。この間、約273万人が使っている。

子宮頸がんの定期予防接種は小学6年から高校1年の女性が対象。別のメーカーのワクチンでも、この二つの副作用が説明文に記されている。

子宮頸がんワクチン

注意障害など

298人に副作用

厚生労働省は二十八日、グラクソ・スミスクライン社製の子宮頸がんワクチン「サーバリックス」の副作用で最近三年間に意識障害などを伴う急性散在性脳脊髄炎(ADEM)

が三人、手足のまひなどを伴うギラン・バレー症候群が五人あったと発表した。

同省によると、死亡例はない。この三年間で推計二百七十三万人が接種を受けた。これらの症状はMSD社の子宮頸がんワクチン「ガータシル」やインフルエンザワクチンなどの接種後にも確認されている。

厚生省の担当者は「予防接種では一定の割合で副作用の出るリスクは避けられない。子宮頸がんワクチンに限らず、接種後に異常を感じたら医療機関に相談してほしい」と呼び掛けている。